

菊陽人 りさーち



わたなべ りこ
渡辺 里紅さん (9歳)
[三里木]

- 趣味 ケイドロ
- 今後の目標 25秒を20秒以内に泳げるようになりたい
- 自慢 2段跳びがいっぱいできること
- 今一番やりたいこと 一輪車

「菊陽人りさーち」に掲載を希望される人は、はがきに「氏名」「年齢」「住所」「連絡先(昼間)」を明記のうえ〒869-1192菊陽町役場総合政策課「菊陽人りさーち」係までお送りください。
注)掲載対象は、小学生以上で菊陽町に居住している人に限ります。親子、祖父母と孫など2人1組での掲載もできます。掲載が決まりましたら、こちらからご連絡させていただきます。



こばやし ななこ
小林 南菜子さん (9歳)
[三里木]

- 趣味 ケイドロ
- 今後の目標 2段跳びを50回以上跳べるようになりたい
- 自分を一言で表すと おっちょこちよい
- 今一番やりたいこと 倒立ブリッジ

ゆたかな心をはぐくむ 人権のひろば

子どもの目、子どもの声
人権
作文シリーズ
【No.26】

日常生活では見過ごしがちな親子の絆、友だちとの新たな絆を作文につづることでしっかりと確かめることができたのではないのでしょうか。
*◇印は担任のコメントです。
*作者の学年は前年度の在籍学年となります。

問い合わせ
人権教育・啓発課
☎232-2113

うちの人のじつと

武蔵ヶ丘小学校2年 まつおか けいこ

お母さんはすごい。そして、とてもすきになりました。

ぼくのお母さんは、パンやさんではたらいしています。
みんなは、パンやさんはとってもいいにおいだと思っけれど、あせとあぶらとパンのにおいがまざっているの、お母さんはちよつとくさいにおいをさせて帰ってきます。
帰ってくる、夕はんのしたくをするまでよこになってねています。
「ああ、つかれた。きつい。かまどでやけどしたから、いたい。」とよく言っています。
でも、しごとをやめたいとは、言いません。それは、おきやくさんが、パンをおいしいとよろこんでくれるのがうれしいからだそうです。
でも、たいへんなこともあります。夜おそくまで、新しいパンを考えたり、何度もやり直しをすることです。ぼくは、お母さんに、いいアイデアがでるといい



▲みんなで作って食べるとおいしいね

友だちになれてうれしかったです。

「一年間の反省」

菊陽南小学校3年 富永 亜希子

三年生になって、新しい友だち、りく君と幸恵ちゃんが入ってきた時、とてもうれしかったです。すぐに友だちに

なあと思っています。
お母さんは、たくさんはたらいて、ぼくたちにしあわせになってほしいと言いました。だから、ぼくはお母さんのために、お手つだいや、かたもみをしていました。この前までは、お母さんのいうことをきかなくて、お母さんをこまらせていました。でも、もうやめました。ぼくたちのために、いっしょけんめいにはたらいしているお母さんに、しんぱいをかけないと、きめました。
「うちの人のじつと」をべんぎょうして、お母さんは、すごいと思いました。前よりも、お母さんの気もちをたくさん知りました。そして、とてもすきになりました。今からは、もっと、お母さんのお手つだいをします。がんばりたいです。
◇けいとくんは、パンやさんではたらいしているお母さんのくろうを知ることで、お母さんの気もちがわかりました。今からは、じぶんにできることをたくさんみつけて、お母さんのえがおを、たくさんふやしてあげてください。

なれて、うれしかったです。
幸恵ちゃんには、いっぱい手紙を書きました。
三学期には、りく君と同じわすれものチエツク係になりました。たまにチエツクするのを忘れたりしたとき、りく君から「なんで、ちゃんとせんね。」とおこられました。
幸恵ちゃんとは、同じ曲手だったから、毎日、いっしょに帰ってました。
昼休み、クラス全員で、鬼ごっこをしたとき、体育館で、ドッジボールをした時は、とても楽しかったです。
四年生になっても、みんなと仲良くしていきたいです。
四年生になっても、三年生のめあて
「ゆめをもち、えがおでやさしい、かっこいい四年生。」になります。
◇十人だったクラスに二人も転入生があるなんてホントに驚きでした。みんなどんなふうにしたらいいのかな。少し戸惑っていたところもあったかな。今では、もう何年もいっしょにいるよつです。



▲学校楽しいよ!

菊陽句会報

きくよう文芸

遠目にも見上げるもよし糸桜	坂本百合子	百寿祝ぐ一族舉り花の下	佐藤 節
阿蘇七里ここを起点に山桜	田中 郁子	百寿の鎌も軽しと耕され	吉野 早苗
シャボン玉最終駅は宇宙基地	村田 正三	野菜屑芽吹かせ癒し厨窓	井上久美子
淡き色幾重もまどひ白牡丹	井 子文	垣つたふ大地の息吹き路の臺	宮川ユキエ
公園の春を貸し切り子と遊ぶ	財津 早雪	震災地しのび祈るや春の星	日高 妙子
被災地の悲哀まどひて桜咲く	原野レイ子	幼な児に本気で競ふ四月馬鹿	曾我 育代
春の風発電風車よく廻り	カ 幸子	大震災みぞうの津波に冴返る	曾我トモ子
地震続く友を案じて春灯下	寺尾千代子	それなりに生くる術あり花見英産	紫藤 祥子
菜の花や阿蘇へと続くローカル線	高橋 孝子	心底に悔い抱きては古稀の春	村上 朋子
おさな児のまどろみ深く春の雨	堀川 妙子	八十八夜米寿の幸を酌み交はず	野口 令史
送電線堂々霞に聳え立つ	佐藤 航	ひとひらに我の夢のせ散るさくら	松橋 強
ばあちゃん踏むと言った路の臺	佐藤 健	手品三つ習ひ覚えて春休み	佐藤 澄世

短歌会

春雷の稲妻光る闇の中窓の桜はしらじら浮かぶ
端境期のキャベツ少なく吾一人二百キロ余の注文受ける
大地震に浪たち荒れし後に立ち母を呼ぶ子の声忘れられず
夜桜の明りに霞みしオリオンの星を仰げり夫と歩き
声あげて追いかける幼な子は頭に肩に花片浴びて
柔らかに降る春雨の庭に出す母の残しし万年青の鉢を
山積みの仕分け衣類に貼られたる励ます便りに我が手も止まる
それぞれの思いのありて捨て難く八十歳の引出しに在り

今村 貞子
梅田 國雄
河北 幸一
菊川あさみ
下田 久子
佐藤せい子
中村トシエ
森 敦子